

被爆や戦争の実相を継承し平和について考える取組

安芸高田市立可愛小学校

1 平和教育の取組の概要

本校では、平和学習を人権教育年間計画に位置付け、各教科等の内容と関連付けながら、児童の発達の段階に応じた平和教育を実施することで、児童に「自他を尊重し合い、平和の大切さを考え、進んで世界平和の実現に貢献しようとする態度や能力の基礎を育成する」ことを目指している。特に、本県は被爆県であることから、戦争や被爆の実相を通じて、命の尊さや平和の大切さを考えることを取組の中心においている。そして、昭和20（1945）年8月6日、世界で初めて人間に対して原子爆弾が使われ多くの尊い命が奪われ、今なおその後遺症に苦しむ方々がおられるという事実を決して忘れてたり風化させたりしてはならないと考え、児童に「戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えることを通して、命の大切さを感じとらせる。」ことをねらいとして、取組を進めている。



戦争体験を聴く

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校は、毎年、8月6日を全校登校日として平和学習を行っている。児童に被爆や戦争の実相を継承し、平和の大切さについて考えさせることをねらいとして、低学年（第1学年～第3学年）は視聴覚教材の視聴を行い、高学年（第4学年～第6学年）は地域に住む戦争体験者の方から被爆体験や戦争中の暮らしについて聞く機会を設けている。また、テレビで放映される平和記念式典を視聴し、子供代表による「平和への誓い」を聞くことで、現在の世界平和の状況や核開発の状況を知り、自らの平和に対する認識を高めることも行っている。

第5学年時には、社会見学で平和記念公園を訪れ、原爆の恐ろしさを伝える展示物や写真を見たり、公園内にある原爆ドームや石碑を見て回ったりすることで、戦争の悲惨さとともに平和の尊さを考えさせている。

第6学年時には、JICA（独立行政法人国際協力機構）の方の体験談を聞き、他国の現状を知り、国際協力や世界平和について考えさせている。

(2) 指導のポイント

- ☆ 被爆体験や戦争体験、戦時中の人々の暮らし等を聞き取ったり調べたりして、意見交換をし、まとめることで、戦争の悲惨さを知り、命を尊び、平和を大切にすることを育成する。
- ☆ 平和教育の活動における道徳的価値を明確にして取り組み、日頃から命を尊び平和を大切にすることを育成する。
- ☆ 持続可能な社会を築くという観点から、平和のみならず、環境問題など国を超えた問題が多くあることに気付かせ、様々な国や立場の人々と協力することが大切であることを理解させる。（付けさせたい力1、2）
- ☆ 日頃の授業においても、自分とは異なる意見を大切にするとともに、自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる力を育てる。（付けさせたい力2）

3 学習指導案

◎ 本時の授業… 8月6日の平和記念式典を視聴した後、ビデオを見たり、戦争体験を聞いたりし、感想交流を行う。自己を振り返り、自分の考えをまとめる。

(1) ねらい

戦争や被爆の実相に触れ、命の大切さ、平和の尊さを実感し、平和な社会を築こうとする意欲や態度を育てる。

(2) 対象学年 全学年

	学習活動	指導上の留意事項 (★評価)
つかむ	1 平和記念式典を視聴する。 ・平和宣言を聞く。 2 本時のねらいをつかむ。 3 平和の歌を歌う。	・昭和20(1945)年8月6日に広島、9日に長崎に原子爆弾が落とされたことを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">命の大切さや平和の尊さについて考えよう。</div>
考える・深める	4 平和について考える _____ <1年～3年> _____ ○「おこりじぞう」を視聴する。 ○感想を交流する。 _____ <4年～6年> _____ ○戦争体験を聴く。 講師 安芸高田市吉田町在住 ・戦争前・戦争中の暮らし ・原爆投下後の様子と家族の変化 ・そして、今 ○感想を交流する。	・理解が困難な場面については指導者から補足説明をする。 ・感想交流を行うことで、友達に共感したり、自分になかった考え方に気付かせたりする。 ・戦争が激しくなる前は、現在のように家族みんなで楽しく生活していたことを容易に想像できるよう、視聴覚機器を使用し、写真を拡大して映す。 ・講師の「考える子になってください」という話から、これからの自分の生き方を考えさせる。 ・感想交流を行うことで、戦争の悲惨さ、平和を守ることの大切さについて考えさせ、自分の生き方を振り返らせる。
振り返る	5 まとめをする。 6 感想や講師の方への手紙を書く。	・恐怖だけでなく決意や希望につながるよう、被爆者の願いに触れることができるようにする。 ・今の自分、これからの自分は、どうしていくことが大切か、何ができるかを考えさせる。 ★戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えることを通して、命の大切さを感じることはできたか。

4 児童の反応 (授業後の感想等)

児童は、心の痛みを感じ、共感し、一緒に悲しみ、自分自身を見つめた。そして、講師の方が、「喧嘩から始まるのが戦争」「よく考えて物事をする子になってください。」と言われた思いをしっかりと受け止め、これからの自分を考えた。

○ 今は家族や友達がいることがあたりまえになっているけど、こうしのかたに言われた「考える子」になって、人を悲しませないように仲良くしていきたいです。

○ おこりじぞうは、おじいさんの気持ちをわかっているから、おこったと思います。ぜったいに戦争をやめてほしいです。

○ 私は、戦争はつみもない人もまきこんでしまう…こんな事はあってはならないと思います。人ととのけんかは、小さな戦争です。私はそんな争いを止めたいです。

○ 私も話を聞いて、胸が痛くなりました。家族がばらばらになって、…悲しかったですね。私もひいおじいちゃんが亡くなった時、涙が止まりませんでした。

○ 今は平和だから家族とも当たり前にかえます。『平和』を自分たちで作りを広げ、どの国とも楽しく仲良くしたいです。そのためには、友だちや相手のことを考えて、人を大切にすることが大事だと思います。

○ 私は、今こうやって幸せに暮らせることは、当たり前ではなく、とっても恵まれていることなんだと改めて思いました。家族がばらばらになることを考えるだけでも怖くてたまりません。



平和記念式典 視聴

○ ぼくたちの毎日は、あたりまえではないことが分かります。平和はいいことだし、すてきなことなので、家族とも友達とも仲良く、命を大切にしていきたいです。

○ これからも「1945年8月6日午前8時15分」をずっと覚えておき、次の世代に伝え、広島であったことを教えていきたいです。被爆者の方は平均年齢が78歳・・・だからこそ、話を聞いて「このことは忘れてはならない」と思いました。